

理事長退任のご挨拶

日本周産期メンタルヘルス学会前理事長

鈴木利人

2022年10月、4年間の任期を終了し理事長を退任させて頂くにあたり、学会の運営を支えて頂きました理事、監事、評議員、顧問ならびに正会員の皆様に厚く御礼申し上げます。第18回学術集会も盛会に終わり、大会2日目には理事長講演を企画して頂くなど大変ご尽力を賜わりました常盤洋子大会長ならびに事務局の皆様には重ねて深謝申し上げます。4年間という限られた期間ではありましたが、本学会の更なる発展を願い、退任にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

本学会の継続的に安定した運営を目指し、就任早々に学会内に総務委員会と財務委員会を設置するとともに、学会支援機構や大村印刷などの外部機関と連携し学会のさらなる発展に向けて新たな体制作りを目指しました。コロナ禍の4年間で学術集会も3回のみの開催となりましたが、その間にポスター発表の最優秀賞「岡野賞」を創設することができました。学会を代表する賞であり、周産期メンタルヘルス分野の国内研究の停滞を打ち破るブレークスルー的存在になってほしいと思います。

この数年精神科領域では、周産期メンタルヘルスに関するシンポジウムの毎年の開催やガイドライン作りが精力的に行われるようになりました。このような新しい時代の波にのまれることのないように、再度ガイドライン委員会を立ち上げ周産期メンタルヘルスコンセンサスガイド2017の改訂作業を進めて参りました。関係各所のご努力により漸く完成の目途が立ってきたことに安堵しています。願わくはガイドの国際的デビューを果たす姿が見てみたいとの独り善がりな気持ちも抱いています。

ふり返ってみれば、国内のさまざまな地域や病院において周産期メンタルヘルスの多職種連携が活発化し、そのような活動をRainbow Letterに毎回紹介できるようになりました。その一方で、私自身の心残りは日々頑張っておられる会員の皆様に十分な支援を行えなかったことでした。会員サイトを立ち上げましたが、会員のご協力により作成されプレスリリースされた「COVID-19の感染拡大にともなう妊産婦のメンタルヘルスに関する実態調査」の詳細を掲載するに留まりました。今後は、佐藤昌司新理事長のご指導のもと研修委員会を中心となり会員に評価される「ライブラリー&アーカイブス」構想を実現してくれるものと期待しています。

最後に佐藤理事長を中心とした新体制の理事会および評議員会が一体となり、本学会の一層の飛躍を切に願っております。これまで支えて頂きました多くの方々に衷心よりお礼申し上げますとともに、学会と会員の皆様に「Blue Roseの花言葉(夢は叶う)」を捧げ退任のご挨拶とさせていただきます。

2022年11月吉日